

-輝け富士!-



六世版隈浦田周社が
浮世絵の伝統技法で描いた作品の数々

浦田周社木版画美術館では、版画家で本学客員教授の浦田周社氏が、昨年、地域文化振興への功績が認められ、文部科学大臣表彰を受賞したのを記念し、代表作を集めた特別展「輝け富士！」を開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、学外関係者の方は、美術館を含む学内の施設利用が制限されているため、ホームページ上でいつでもご覧いただける「バーチャルツアー」で版画作品をお楽しみください。



儲かる農業ビジネス

農業を始める人、農業で飛躍しようとする人、必読。
～野菜を作り、売る方法をマーケティングから考える。～

私たちが農業を始めるために大切なことは何か。売れる野菜を作るためには何が必要なのか。新規就農、農業での起業、農業法人、ビジネス経営体、農業の6次産業化、農業マーケティング、女性就農、スマート農業、農業のマーケティング戦略について、農業ビジネスの研究者や実際に農業を始めた人、野菜販売者の声をもとに考える。静岡産業大学オオバケブックスシリーズ。

編著:新農業経営研究会(堀川知廣・大坪檀) 出版元:静岡新聞社
本体価格(税抜):1,800円 発行月:2019年11月



●図書館のご利用について

	磐田キャンパス		藤枝キャンパス	
開館時間	月～金曜日	9:00～19:00	月～金曜日	9:00～19:00
	土曜日	9:00～12:00	土曜日	9:00～17:00
休館日	日曜日、国民の祝日、大学行事日、夏季・冬季休講中の一定期間等			
利用資格	静岡産業大学の学生・教職員・非常勤講師・一般市民(高校生以上)			
利用方法	一般の方は初回ご利用時に運転免許証や学生証などの身分が証明できるものをご提示ください。			
お問い合わせ	0538-36-8844		054-646-5441	

*2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、開館時間を変更しています。必ず図書館HP「開館カレンダー」でご確認ください。
※一般市民の方のご利用は制限させていただいております。(2020年11月15日現在)

●2020年度 大学祭についてのお知らせ

2020年11月28日(土)・29日(日)に開催を予定しておりました本学磐田キャンパス大学祭<蒼樹祭>、並びに、藤枝キャンパス大学祭<鳳翔祭>は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、皆様の安全を最優先に考え、以下のとおり対応いたします。

	蒼樹祭(磐田キャンパス)	鳳翔祭(藤枝キャンパス)
開催	オンライン開催	中止
日程	11月28日(土)～	※大学祭は中止致しますが、11月28日(土)に学内限定の新入生歓迎イベント等を実施します。

磐田キャンパス
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572番地1号
TEL: 0538-37-0191(代表)

藤枝キャンパス
〒426-8668 静岡県藤枝市駿河台4丁目1番1号
TEL: 054-645-0191(代表)

藤枝駅前サテライトキャンパス BiViキャン
〒426-0067 静岡県藤枝市前島1丁目7番10号
TEL: 054-639-7164

SSU NEWS



【巻頭鼎談】

withコロナで教育はどう変わるのか?

オンライン授業で学びの現場が進化する。

オンライン授業の舞台裏を大公開／ハイブリッドなオンライン授業に密着

“スポーツの持つ力”で豊かな社会を創ろう！

SSUスポーツ科学部入門

【Q&A】教えて、小澤先生！／地域社会を支えるSSU卒業生
スポーツ科学を体験しよう。

SSU在校生インタビュー／SSU卒業生インタビュー



Shizuoka
Sangyo
University

静岡産業大学

#今は少しだけ距離をとろう

Shizuoka
Sangyo
University

静|岡|産|業|大|学

本学では、引き続き感染拡大状況を注視しながら「安全を最優先し、そのなかで最善の教育活動を行う」という基本方針の下で、学生の皆さんができるよう様々な工夫や改善をしてまいります。私たち一人ひとりが、できる限りの行動を取り続け、あなたと大切な人がこの状況を切り抜け、また一緒に学んでいけるように。今は少しだけ距離をとろう。

withコロナで教育はどう変わるのか?

オンライン授業で学びの現場が進化する。

突然はじまった オンライン授業。 そのとき大学は?

佐野 本学では、鶴崎学長の音頭で3年前にICT(情報通信技術)研究機構を立ち上げ、オンライン授業の研究を進めてきました。ICT研究機構の活動により、同時双方向型オンライン教育の下地がある程度できあがっていたこともあり、コロナ禍で急に始まったオンライン授業も、比較的スムーズに展開できたのではないかと感じています。

そこで鶴崎学長に伺いたいのですが、学長はなぜICT研究機構を立ち上げようと考えられたのでしょうか。

鶴崎 まずあったのは、「情報リテラシー教育のレベルをもう少し上げなければいけないのではないか」という問題意識です。情報リテラシー教育そのものは以前から行つてはいましたが、パソコンやスマートフォンがこれほどまでに普及した今、情報リテラシー教育について改めて多角的に研究する必要性を感じていました。

従来的な授業スタイルについて限界を感じていたというのも理由の一つです。先生が教壇に立ち、大勢の学生に対して知識を一方的に詰め込

んでいくマスプロ授業(大人数の講義形式の授業)をいつまでも続けていて良いのだろうかと疑問に思っていました。ただ、マスプロ授業の変革にはICTの活用が欠かせません。そこで、ICTを活用した授業を全学的に進める準備として、ICT研究機構を発足したのです。

佐野 コロナ禍による自粛、そしてオンライン授業の一斉導入という未曾有の事態に戸惑う先生も多いなか、学長は「『走りながら考えよう』『習うより慣れろ』の精神でいこう」とアナウンスされました。なぜ、このような宣言をされたのでしょうか。

鶴崎 3年前からICT研究機構を立ち上げて活動してきましたが、それでも、実際にオンラインで授業をするのは多くの先生方にとって初めてでした。当然、スキルや知識にはばらつきがあります。だからといって、すべての先生方のスキルと知識を同じ水準まで引き上げ、準備万端に整える猶予は、もはやありません。不慣れな点があつても、やりながら覚えていただくなき。そんな思いから、『『走りながら考えよう』『習うより慣れろ』の精神でいこう』とお伝えしました。

佐野 学長のアナウンスのおかげで、多くの先生が「とにかくできることからやってみよう」と前向きに取り組めたのではないかと感じています。さて、オンライン授業の一斉導入は本学では初の

試みでしたが、観教授が籍を置かれている東京通信大学は、オンライン完結型の新しいタイプの大學生と伺っています。実際にはどのように授業が行われているのでしょうか。

観 東京通信大学は2018年4月に開学しました。初の卒業生を送り出すのは2022年という新

しい大学です。通常、通信制の大学というのままテキストがあり、学生はテキストを読んで自分で勉強をしますよね。そこを本学では、テキストではなくインターネットを使って講義を配信しています。

15分×4回分の講義動画を視聴したら、インターネット上で小テストを受ける。小テストにかかる時間は30分ほどです。つまり、合計60分の講義の視聴と30分の小テストで90分。この1セットが一般的な大学の90分授業に相当するという仕組みです。期末試験にあたるテストもオンラインで行います。一部、実習やレポートがあるものの、ほとんどの講義がオンラインで完結します。

佐野 本人確認はどうされていますか? 今回のオンライン授業の導入で非常に悩んだのが出席の確認でした。

観 Zoomなどを使って行われるオンライン授業はリアルタイムで進んでいますよね。場所は別々ですが、先生と学生は同じ“時間”を共有しています。一方、東京通信大学の場合はそうではありません。

観 捷彦教授 × 静岡産業大学 佐野 典秀教授

withコロナで教育はどう変わるのか?

コロナ禍により急きよ導入されたオンライン授業は、学びの現場をどう変えたのか?
オンライン授業に詳しい3人の先生にお話を伺いました。

鼎 談 者		
	司会進行 / 静岡産業大学 佐野 典秀教授 (ICT研究機構長)	く 鼎 談 者 >
	静岡産業大学 鶴崎 早雄学長	ゲスト / 東京通信大学 観 捷彦教授 (早稲田大学名誉教授)
	製鉄会社、コンサルティング会社を経て 2016年4月より現職。専門分野は経営 情報学、経済工学。	プログラミングについて研究するかたわら、 情報分野における人材育成に貢献。2008 年藍綬褒章受章。

せん。学生は講義動画をいつでもどこでも視聴できるので、“時間”は共有していないのです。したがって、「学生本人が講義動画をきちんと視聴しているのか?」「学生本人がテストを受けているのか?」という疑問が生じます。

そこで本学では、講義動画の視聴もテストも、必ずビデオカメラ付きのデバイスを使って受けることを義務づけています。そのうえで、デバイスの向こうにいるのが本人かどうかを、機械と人とでランダムにチェックするシステムを導入しています。

鶴崎 なるほど。とても参考になります。ところで、卒論やゼミはどうされていますか?

観 「せっかく大学で学ぶのだから、卒論やゼミも経験したい」という学生もいます。ですから、3年次までの成績が優秀な学生にはオンラインでゼミを実施し、卒論を書いてもらうような仕組みは用意しています。ただ、先ほども申し上げたように本学は2018年にスタートしたばかりです。2020年の時点で4年次に進級した学生はいないため、卒論やゼミは現時点ではまだ実施されていません。

佐野 オンライン授業の実施には様々な課題があり、どの教育機関も対応に追われました。本学も例外ではありません。鶴崎学長から、本学の取り組みについてご説明いただけますでしょうか。

鶴崎 本学の場合はまず、先生方向けにオンライン授業の研修を行いました。同時に、先生方が授業に専念できるよう支援体制を確立しました。具体的には、通信系のサポート要員を配置して、オンライン授業にアクセスできない学生の対応などをお願いしたのです。サポート要員には学生のボランティアのほかに藤枝市民の方にもご協力いただきました。先生方は通信系のトラブルに気を取られることなく授業に専念できたのではないかでしょうか。こうした取り組みは、ICT研究機構の中でも特に佐野先生並びにICT委員会が中心となって進めていただいたのですが、非常に成功したと思います。

観 学生への対応はいかがでしたか。

佐野 オンライン授業を始めるにあたり、本学特に心掛けたのは「学生が1人残らずオンライン授業を受講できるようにすること」「学生の学びを止めることなく、なおかつ学びの質を確保すること」の2点です。

この2点を担保するには、学生個々のインター

らも学生たちからも様々な反応がありました。観先生は以前は早稲田大学にいらっしゃいましたが、早稲田大学では随分早くからオンライン授業を導入していたと聞いています。オンライン授業に関して何か印象に残っていることはありますか?

観 早稲田大学はコロナ以前から、インターネットで講義の中身を配信する仕組みづくりを進めていました。といっても、先生と学生がリアルタイムでやりとりする同時双方向型ではありません。パワー・ポイントなどで作った教材を映して、その画像の隣に先生の顔が入って解説するというものでした。東京通信大学と同じオンデマンド型ですね。これを、いざ導入してみると、非常に興味深い現象が起きました。文学部の先生方が他の学部の先生より、乗り気だったんです。

鶴崎 理工系や情報系の学科の先生ではなく、文学部の先生が、ですか?

観 意外ですよね。でも、ちゃんとした理由があつたんです。文学部の先生の中には、古典的名作の原著だったり希少な絵画だったり、文化財レベルの資料を収集していらっしゃる方が少なくないんですね。

貴重な資料ですから、大学に持ってきて学生にじかに見せるのは難しい。でも、オンライン授業なら資料を撮影して見せることができる。さらに、その教材作りは職員たちがサポートしてくれる。文学部

オンライン授業の一斉導入は
“財産”。今後もオンライン教育
の研究を進めていきたい。

今回の経験を糧に、学習環境の整備やサポート体制の拡充、学生の学び・成長の可視化、PBL等を通じた自治体、地域産業界とのスムースな連携など、今後も本学のICT化を進めています。



※今回の鼎談はオンラインにて行いました。

の先生はこれに気を良くしたわけです。文学部の先生たちの活躍により、オンライン授業のコンテストはとても充実しました。静岡産業大学の先生方の反応はいかがでしたか？

鷲崎 多くの先生が「意外に出席率がいい」「講義を開始したらほぼ全員が参加していた」と驚いていましたね。「従来の対面授業よりも、オンライン授業の方が学生の反応がある」と喜んでいる先生もいらっしゃいました。いつも恥ずかしがって答えてくれない学生も、オンライン授業なら答えてくれるというのです。精神的な理由から通学が困難だった学生が、オンライン授業なら受講できるということで、これまで取り組んでいた単位を取得できたというケースも聞いています。

印象的だったのが、磐田キャンパスのICT委員長を担当されている青木優先生の言葉です。先生は、「今回の経験で、オンライン教育においてもコミュニケーションが大切だということがよくわかりました」とおっしゃっていたんですね。青木先生は、100分のうち50分間は授業をし、残りの時間は学生との質疑応答にあてたそうです。

寛 その青木先生の気づきは、とても重要な思います。

佐野 学生の反応はいかがでしたか。

鷲崎 通学しないで済むという点を評価している学生は多かったです。それから、1年生からは「友人をつくる機会がない」「友人のコミュニケーションが取れない」という悩みが多く寄せられました。

「課題だけ出して教えてくれない先生がいる」という不満もありました。これは本学だけでなく他大学でも随分問題になっていますし、先ほどの青木先生の「オンライン授業もコミュニケーションが大切だ」という気づきとも関連してくると思いますが、オンライン授業の導入は、大学教育のあり方を見直す良い契



機となったのではないかと感じています。

オンライン授業が大学教育のあり方を変える！？

佐野 コロナ禍によって多くの教育関係者、そして学生がオンライン授業を体験しました。その実体験を踏まえた上で伺いたいのですが、オンライン授業によって今後、大学教育はどのように変わっていくと思われますか？

寛 先ほどの鷲崎学長のお話にもあったように、オンライン授業の導入により大学教育の課題が浮き彫りになったのではないでしょうか。文科省は近年、「反転授業」を推奨しています。反転授業とは、これまでいうところの“授業”は映像教材などを用いて予習しておき、実際の授業では演習や学習内容に関わる意見交換を行うというものです。

従来、授業とは知識を“インプット”する場であ

り、“アウトプット”は宿題や課題を通じて行っていました。それを「反転」させた新しい学びのスタイルが反転授業です。これまでなかなか広がりませんでしたが、オンライン授業の普及により浸透するかもしれません。事実、静岡産業大学では、青木先生のように学生との対話に時間を割き、アウトプットを重視する先生が現れました。教育の現場では、今まさに一大革命が起こっているのです。

鷲崎 本学は藤枝市と磐田市にそれぞれキャンパスがあり、何十キロも離れています。先生が講義のたびにキャンパスを移動するという手間を省くためにこれまで様々な手法を試してきましたが、Zoomに代表されるクラウド型のビデオチャットサービスの進化により解決の目途が立ちそうです。離れた場所に複数のキャンパスを構えている大学も同様ではないでしょうか。

オンライン授業の導入は学生にもメリットがあります。たとえば、卒業に必要な124単位のうち60単位まではオンライン授業で取れるようになれば、通学時間や交通費が減って学生や保護者の負担が軽くなります。

寛 東京通信大学の母体は、新宿駅西口のコクーンタワーでおなじみの、あのモード学園です。モード学園は学校法人として、様々な教育を提供してきましたが、時代とともに大学教育を受けたいと願う人が増え、それに応えるべく東京通信大学という新しいスタイルの大学を設立しました。多くの大学がオンライン授業に取り組めば、「学びたい」という意志を持った方が大学教育を受けられる機会が増えるでしょう。

鷲崎 これまで、通学のための費用や時間がネックとなり大学進学や志望大学を諦めざるを得なかった人たちが、オンライン授業の導入で、望む教育を受けられるチャンスができた。非常に喜ばしいことです。

寛 はい。ただし、オンライン授業は万能ではありません。たとえば、先生がひたすら知識を詰め込む

高校の授業とは違い、大学では「問い合わせ」を自ら探して考えなくてはいけない。大学というものは、自ら考える力を身につけるためのトレーニングの場です。従来の学生たちは、講義中に先生とやりとりしたり友だちと雑談したりしながら、大学ならではの学び方を自然と会得してきたのです。

ところが、今年大学に入学してずっとオンライン授業だった学生や、東京通信大学の学生には、「高校と大学とでは学び方が違うのだ」という事実を経験する機会はありません。授業という同じ空間、同じ時間を先生や学友と共有することで初めて得られる体験を、オンライン授業が広がる中どのように学生たちに担保できるのか。真剣に考えなくてはいけません。

佐野 オンライン授業のアプリや通信環境といった技術は今後も進化していくと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

寛 システムの進化に取り残される人が出ないような取り組みが必要かもしれませんね。小学校、中学校、高校でオンライン授業をあまり経験しておらず、デバイスをうまく使えない学生がいても不思議はありませんから。2年次、3年次の学生が1年次の学生をサポートするような、そのような体制を構築できたら良いのではないかと考えています。

withコロナの時代 大学教育はどうあるべきか

佐野 先日、東京大学の先生に聞いたのですが、マサチューセッツ工科大学やハーバード大学といった海外の有名大学が、日本の大学にコンテンツを売り込みにきているそうです。日本にいながら海外の教育を簡単に受けられる時代が近づきつつあります。

また、オンライン授業の導入によって、学生の学び方はより細分化・個別化していくといわれています。今後は、個々の学生の特性・能力に応じた臨機応変な学びが求められるようになるでしょう。このような状況にあって、日本の大学はどうあるべきか。展望をお伺いできればと思います。

鷲崎 静岡産業大学は、地域に根ざした大学を目指しています。すなわち、地域で活躍する人材の輩出が本学のミッションです。地域で活躍する人材の育成には、ゼミや教育実習、実験実習といった対面授業が不可欠で、オンライン教育だけというわけにはいきません。現状、オンライン授業はどうしてもリテラシー教育がメインになりがちですから。

佐野 寛教授にご説明しますと、本学にはたとえば、地元産業界等と連携したPBL（課題解決型

学習）科目があります。企業や自治体など地域社会から依頼のあった案件に対して、映像制作・Web制作・グラフィック制作・キャッチコピー制作・イベント企画などに学生が取り組むという、演習形式の授業です。こうした取り組みは、地域で活躍する人材の育成に欠かせませんが、オンライン授業ではまだまだ難しいと言わざるを得ません。

鷲崎 したがって今後は、先ほど寛教授が仰っていた反転授業を取り入れたようなオンライン教育と、従来型の対面教育をうまく組み合わせた、“静岡産業大学式のハイブリッド教育”を確立しなければいけないと考えています。

寛 先生や職員を含めた人材と設備、さらにはその他の様々なリソースをどのように組み合わせ、その結果として学生たちに何を与える、大学としてのミッションをどう達成するのか。それを今後ますます問われるようになるでしょうね。

一方で、オンライン授業に必要なアプリやサポートはこの瞬間もどんどん進化して使い勝手は日々向上しています。さらに、先生方もオンライン授業のアプリやツールにかなり慣れてきたように感じます。このように少し余裕も出てきた今、「こういう講義の進め方もできるのではないか」「こんな教材も使えるのではないか」といったアイデアを温めている先生も大勢いらっしゃるのではないかでしょか。オンライン授業の導入がきっかけとなって、教育現場に新しい学びの芽がたくさん出てくるものと期待しています。

佐野 オンライン授業の導入により、われわれ教育者に求められる資質も変化しています。だからこそ、まずはわれわれ教育者が自主的に、そして前向きに行動しなければいけませんね。本日はお忙しい中ありがとうございました。



これからの大学は自分の大学でなければならないことを追及していくべき。

オンライン授業の普及により、今後は国内の有名大学はもちろん海外の名門大学の講義も視聴できるようになります。だからこそ、各大学はミッションを明確にする必要があるのです。

about ONLINE LEARNING

オンライン学習環境

本学のICT研究機構について

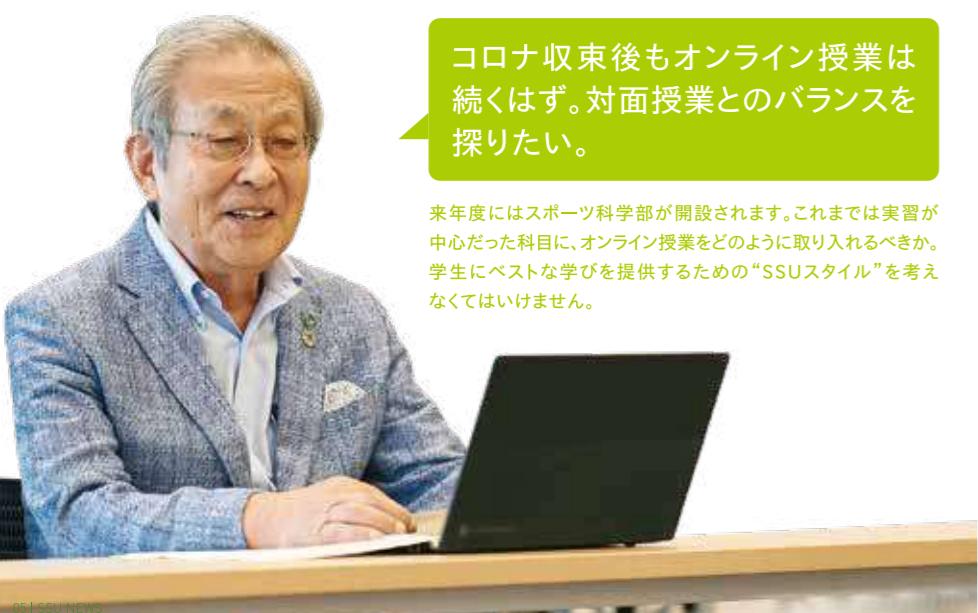
ICT研究機構には「遠隔授業実施WG」「e-Learning準備、整備WG」「BYOD（個人が所有する情報機器）活用WG」の3つのワーキンググループがあり、それぞれ、同時双方向型、オンデマンド型、学習者のオンライン授業環境整備を中心検討しています。

オンライン授業の2つのタイプ

オンライン授業は「同時双方向型」「オンデマンド型」に大別できます。同時双方向型は、Zoom等を用いて授業をリアルタイムで配信するスタイルです。オンデマンド型は、先生がネット上で資料や講義ビデオ等を配布し、学生は好きなタイミングで学習します。

オンライン授業の普及状況

文部科学省は2020年5月13日、新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等、専門学校の対応状況について発表しました。それによると、「遠隔授業を実施する」と回答したのは国立大82.6%、公立大55.2%、私立大65.2%でした。



コロナ収束後もオンライン授業は続くはず。対面授業とのバランスを探りたい。

来年度にはスポーツ科学部が開設されます。これまで実習を中心だった科目に、オンライン授業をどのように取り入れるべきか。学生にベストな学びを提供するための“SSUスタイル”を考えなくてはいけません。

鷲崎 これまで、通学のための費用や時間がネックとなり大学進学や志望大学を諦めざるを得なかった人たちが、オンライン授業の導入で、望む教育を受けられるチャンスができた。非常に喜ばしいことです。

寛 はい。ただし、オンライン授業は万能ではありません。たとえば、先生がひたすら知識を詰め込む

withコロナ時代の 学びの新しい スタイルとは？ オンライン授業の 舞台裏を大公開！

2020年度の後期から一部の講義では対面授業もスタートしていますが、オンライン授業も継続して行われています。SSUではどのようなオンライン授業が行われているのか。二人の先生にお話を伺いました。

オンライン授業について 学生たちはどう思っている？

コロナ禍により急きよ導入されたオンライン授業について、学生たちはどのように感じているのでしょうか。学内でアンケートをしたところ、次のような結果になりました。

対面授業を「3」とした場合のオンライン授業の点数は？

理解のしやすさ / **3.16**

意欲 / **3.12**

資料のわかりやすさ / **3.33**

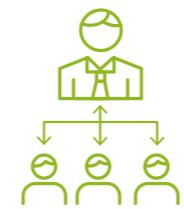
質問のしやすさ / **2.80**

この結果から学生たちは、対面授業よりもオンライン授業のほうが「理解しやすい」「意欲を持ちやすい」「資料がわかりやすい」と感じていることがわかります。一点、質問のしやすさについては対面授業を下回りました。学生たちはおおむね、オンライン授業に肯定的なようです。

SSUのオンライン授業は 主に4つのタイプがあります

1 同時双向型

先生は、キャンパスなどで、時間割上の講義時間に講義を行い、オンラインで配信します。学生はそれを自宅でパソコンやスマホなどを用いて受講します。先生と学生が同時に、双方にコミュニケーションをとることができるために「同時双向型」と呼ばれます。ネットワークの不調などにより講義をうまく配信できない、または受講できない場合は、課題研究などを課して学生の学修時間を確保します。



2 オンデマンド型

オンデマンドとは、「ユーザーの要求に応じてサービスを提供する」という意味です。オンデマンド型の講義では、先生は講義の特性に合わせて資料を準備し、資料をインターネット上に置きます。学生はそれを自宅でパソコンやスマートフォンなどを用いて、都合のよいときに視聴します。リアルタイムでのやりとりができない点が、同時双向型との違いです。先生は学生からの質疑応答にはメールや電話などで対応します。



3 MOOCなどの教育動画を活用

オンライン授業では、外部機関のMOOC (Massive Open Online Courses)などを活用することもあります。MOOCはインターネットを通じて配信される講義動画で、多彩なコースが提供されています。学生はMOOCなどを聴講し、最後に先生がまとめや指導、質疑応答などを行います。



4 教科書や教材による課題研究

オンライン授業の一環として、先生が学生に対して自宅学修を指示することもあります。自宅学修の内容は、資料を読む、レポートを書くなどさまざまです。先生は事前に学修の目的やねらい、資料を読むに当たっての留意点や、必要な視点・観点などを説明。質疑応答にはメールや電話などで対応します。



「同時双向型」と「オンデマンド型」 二つのオンライン授業の特徴とは？

● 同時双向型

リアルタイムでやりとり可能。
対面授業に近い感覚で学べます。



牧野 好洋教授

「日本経済論」「経済統計」「現代経済学A」「現代経済学B」などの講義およびゼミを担当。専門分野は計量経済学、経済統計。

対面授業とのバランスを摸索中

科目にもよりますが、オンライン授業は同時双向型を中心に行っています。はじめたばかりのころはZoomの操作に手こずり、講義の途中で回線がいきなり不安定になって慌てることもしそうでした。でも、そんな格好悪い姿も学生に見てもらおうと思ってやっていました。「コロナだからできない」ではなく、「コロナでもやるんだ」と奮闘する教員の様子を見せるのも、一つの教育ではないかと考えたんです。後期になり、私も学生もオンライン授業にだいぶ慣れてきたように感じます。一方で、課題も見えてきました。同時双向型には、学生と先生がリアルタイムにやりとりできる、講義にメリハリがつけやすいなどのメリットがあり、従来の対面授業に近い感覚で学べます。でも、講義の前後や合間に学生同士が雑談することはできません。つまり、学生同士のコミュニケーションがどうしても不足しがちなわけです。学生同士の交流も、大学生活における大切な学びです。その学びをどうすれば担保できるのか。コロナ収束後もオンライン授業はなくならないでしょう。だからこそ、教員は一丸となって、対面授業とオンライン授業のベストな組み合わせを考えなくてはいけないと思っています。

\ 同時双向型のメリット /

- ① 先生と学生がリアルタイムにコミュニケーションできるため、従来の対面授業に近い感覚で学べる。
- ② 学生の質問に合わせてより詳しく説明するなど臨機応変に対応でき、講義にメリハリがつけやすい。

● オンデマンド型

くり返し視聴できるので効率よく学修できます。



久保田 貴之講師

「心理学概論B」「情報処理基礎I」「情報処理基礎II」「心理学」「消費者心理学」「心理学基礎実験」「インターネット演習」など、心理と情報に関する講義を担当。

理解度の把握と能動性アップがカギ

オンライン授業導入当初はいろいろな方法を試しましたが、現在はオンデマンド型を中心に行っています。ひと口にオンデマンド型といっても授業の作り方は人それぞれ。私の場合はパワーポイントでスライドを作成し、そこに音声ナレーションをつけています。学生はスライドを見ながら、同時に解説が聞ける仕組みです。1コマ100分の講義に使うスライドは40～50枚。スマートフォンのように小さな画面で視聴する学生もいるので、文字をある程度の大きさにしないと見えにくく、結果としてスライドの枚数が増えてしまいます。不慣れなせいもあるでしょうが、対面授業のときより準備には時間がかかりますね。オンデマンド型はくり返し視聴できるのが利点です。自分が理解できるまで復習できるので、意欲がある学生は着実に伸びます。ただし課題もあり、学生が講義の内容を理解できているかがわかりにくく、加えて、学生が受け身になりやすいのです。これについては、現在はレポートや小テストを通じて理解度の把握と能動性の向上を図っていますが、今後は同時双向型や対面授業もうまく組み合わせられたらと思っています。また、メールでの質問にはできるだけ早く回答し、学生のモチベーション維持に努めています。

\ オンデマンド型のメリット /

- ① 学生が好きなタイミングで聴講できる。
- ② 講義の中断や脱線などが少なく、効率よく学修できる。
- ③ くり返し視聴できるので、知識が定着しやすい。

同時双向型と オンデマンド型。 二つを組み合わせた ハイブリッドな オンライン授業に密着

8ページに登場していただいた牧野好洋先生は、担当している科目「経済統計」において、同時双向型にオンデマンド型を組み合わせたオンライン授業を行っています。その舞台裏を見せていただきました。

今回密着した講義は…… 「経済統計」



牧野先生が担当する「経済統計」の講義では、経済統計の見方や使い方、また統計を用いた経済分析の方法を教えています。前年度までは対面授業で行っていましたが、2020年度はオンライン授業が中心に。現在は、同時双向型とオンデマンド型を組み合わせたスタイルとなっています。



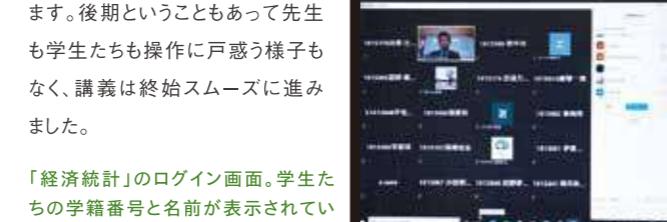
1 講義の様子

月曜朝9時、 同時双向型の講義がスタート

「経済統計」の講義は月曜の1限、朝9時から行われます。8時50分、牧野先生がZoomを起動して講義ルームへのアクセスを許可すると、学生たちが少しずつログインしてきました。先生は学生たちの出席具合を確認しながら、恒例の雑談をはじめます。「雑談の内容は、天気や体調、磐田キャンパス周辺の観光スポットなどさまざまです。オンライン授業が続き、苦労していたり不安に思っていたりする学生を少しでも元気づけられたらと思って続けています」と牧野先生。

9時になり講義がはじまりました。この日のテーマは「物価」。先生は事前に作成した資料を画面共有しながら、さまざまな価格の集計の仕方や物価上昇率、寄与度の算出方法について解説します。インターネット回線への負担を減らすため、講義中は学生たちのビデオおよびマイクは基本的にオフになっていますが、質問などがあればオ nにして随時発言が可能です。また、チャット機能を使って質問することもできます。後期ということもあって先生も学生たちも操作に戸惑う様子もなく、講義は終始スムーズに進みました。

「経済統計」のログイン画面。学生たちの学籍番号と名前が表示されています。



対面授業では、学生の集中力が落ちてくる講義の半ばころに雑談を挟んでいたという牧野先生。学生との雑談から思わぬアイデアが生まれることもあるそうです。

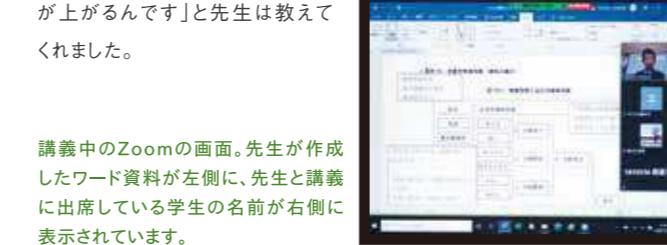
2 質疑応答の時間

オンラインだからこそ 質疑応答を大切に

講義も終わりに近づいたタイミングで、質疑応答タイムがはじまりました。「講義中も自由に質問できますが、対面授業のように同じ空間にいるわけではないので、質問するタイミングをつかみにくいという声も聞きます。そのため、講義終了前には必ず質問タイムをつくり、質問しやすい雰囲気づくりを心がけています」と牧野先生。そのおかげでしょうか、この日の質疑応答タイムには、「Go To トラベルによる旅行商品の値引きやクーポンは、統計上の価格にどのように反映されるのか」「マスクや手の消毒液など、コロナ禍で激しく売れた品物は来年以降の物価指数にどのような影響を与えるのか」など、興味深い質問が数多く寄せられました。

質疑応答が終わったら、次回の講義の内容についてアナウンスします。「次の講義ではどんな内容を学べるのか、また、それを学ぶことで何ができるようになるのかを具体的に伝えます。そうすると学ぶ意味が明確になり、学生たちの次の講義へのモチベーションが上がるんです」と先生は教えてくれました。

講義中のZoomの画面。先生が作成したワード資料が左側に、先生と講義に出席している学生の名前が右側に表示されています。



ノートパソコン付属のカメラとマイクに向かって解説をしながら、資料を適宜スクロールしていきます。

3 成績評価の仕方

講義を聴講して作成した レポートが成績評価の基準に

静岡産業大学では通常、講義1コマは100分です。一方、「経済統計」を履修する学生は、このような形の同時双向型講義を受講とともに、授業の前に、インターネット上にアップロードされた講義動画を別途、視聴します。つまり、「経済統計」の講義は、同時双向型とオンデマンド型の二つで構成されているのです。学生たちは次の月曜1限までに講義動画を見て、知識を習得してから授業に参加、その後レポートを作成します。「オンデマンド型で知識を事前に習得し、同時双向型では復習とアウトプットを行う。まさに『反転授業』(※)です」と牧野先生は説明します。なお、例年であれば学期末に筆記試験が実施されますが、2020年度の「経済統計」では、筆記試験の代わりに前述のレポートで成績評価をすることにしました。レポートは全部で10本あり、まとめて提出することもできますが、年度末にはほかの科目的レポートとの切りが重なることが予想されます。オンライン授業では、学生たちの計画性・自主性がこれまで以上に問われるようです。

※反転授業…授業で知識を吸収し、レポートや課題でアウトプットを行うという従来の対面授業のスタイルを「反転」させた授業スタイルのこと。新しい学びの手法として注目を集めている。

オンデマンド型オンライン授業の動画はネット上にアップされています。学生は好きなタイミングで聴講できます。



50分ほどの講義動画を作成するのに2時間ほどかかるとのこと。「あと5分で完成といふときに町内放送のアナウンスが入ってしまい、一から作り直したこともあります(笑)」

ベストではない。 でも、今の僕たちに いちばんの集まり方。 SSU学生の オンライン会議

静岡産業大学では5月7日よりオンライン授業が始まりました。後期は半数程度の対面授業が再開。オンライン授業も継続中ですが、そんなコロナ禍で学生たちはどのように過ごしているのでしょうか。大学祭の企画・運営をしている学友会のメンバー4名に語ってもらいました。

コロナ禍での大学生活、 みんなはどうしてた？

浜田 新型コロナの感染拡大により、今年は色々な変化がありました。なかでも、緊急事態宣言が出ていた期間は大学に行けず家にいる時間が増えたと思いますが、みんなは自宅でどんな風に過ごしていましたか。

土屋 授業がない時間は家事を手伝ったりしていました。あとは、趣味の読書をする時間が増えました。

浜田 自分も勉強や家事をしつつ、趣味の時間が増えました。

浜田 趣味というとゲーム？

浜田 ゲームもそうですが、運動量がどうしても少なくなるので、一人で自転車で出かけたりしていました。

吉田 自粛期間中もバイトをしていました。ステイホームの影響で勤務先は手が足りず、バイトの時間がかえって多くなりました。

浜田 接客系のバイトなら、やはり不安もありましたか。

吉田 そうですね。店内には感染対策用の仕切りが設置されていたのですが、それで新型コロナを完璧に防げるというわけではないので、怖いなとは思っていました。

浜田 自分なりに何か対策をしていましたか？

吉田 家を出るときからマスクはずっとしていました。あとは帰ってきたら手洗いうがいをして、アルコール消毒もちゃんとするようにしていました。

浜田 自分は子どもたちにサッカーを教えるバイトをしていたのですが、春は全くできませんでした。そんな中、オンライン授業を受けるためにネット環境を整えたり、パソコンを買ったりしなければならず、金銭的には大変なところもあったんだけど、みんなはどうだった？



浜田 自分もそれまでやっていたバイトができなくなってしまいました。それで新しいバイトを探そうとしたのですが、どこも緊急事態宣言が出てからは募集すらなくて。また、親からは「人が大勢来るような環境でのバイトは感染が怖いからやめてほしい」といわれたのでバイトができず、経済的に厳しかったです。

土屋 私は実家暮らしで、ありがたいことに両親の支えもあり、経済的にすごく大変だったということはありません。でも、アルバイトをする機会は以前より格段に減っています。こういう状況がこれからも続くのであれば、厳しくなるなと感じています。

浜田 吉田君はこのメンバーのなかで唯一の一人暮らしだけど、大変だったことはありますか。

吉田 買い物が一番大変というか、困りました。買い物に行きたいけど、家から出るのは怖いという感じで。ネット通販なども利用しましたが、食事は一度に大量に作って、それを何食かに分けて食べるという感じで過ごしていました。

浜田 実家暮らしの人は、友だちに会えなくても家族がいる分、安心感はあったと思います。一人暮らしだとその点はどうでしたか？

吉田 バイトから帰って一人でそのままずっと家にいるというのはやはり寂しかったです。家族や友だちと電話でコミュニケーションをとったりもしていましたが、相手が話して笑っている顔が見えないのは、思った以上に寂しいと感じました。

浜田 オンライン授業に関してはどうですか？ よかったところがあれば教えて欲しいのですが。

土屋 授業がオンラインになって一番ラクというか、便利になったのは大学までの移動時間がなくなったことです。時間を有効に使えるようになってありがたいです。

浜田 自分も通常に1時間くらいかかるので、それがなくなるだけで大きかったです。逆に困った部分はありますか。

浜田 オンライン授業だと先生に質問がしにくく感じます。だからメールで質問したんですけど、返事がなかなか返って来なくて課題を進められず、これは結構困りました。

吉田 自分は中国語の講義を取っていて、二人一組になって中国語で会話する場面があったんです。通常なら同じ講義を取っている友だちとペアになって話すところを、そのときはほとんど話したことがない学生と二人だけでいきなり会話しなくてはならず、戸惑いました。

浜田 友だちと一緒に同じ教室で講義を受けていたときのほうがやりやすい？

吉田 そうですね。困ったりわからないところがあっても、対面授業であればそばに友だちがいたら気軽に聞けるので。

オンラインでわかった “リアル”的大切さ

浜田 コロナ禍でオンライン飲み会をはじめて経験した人も多いと思います。みんなはどうでしたか？ 楽しかったですか？

浜田 楽しかったのですが、普段と比べると盛り上がりなかった気もします。

土屋 何か一つの話題で盛り上がるというよりは、のんびりした感じですよね。部屋でまったりと自分のペースで飲みながら、画面越しに友だちの顔が見えているぐらいの感覚です。

浜田 大学で実際に会っているときは違う、みんなのプライベートでのラフな姿を見られたのは面白かったです。

浜田 実際に会うことの大変さを感じました。たとえ会話が盛り上がっていなくても、一緒にいることが楽しかったんだなと改めて思いました。

土屋 そうですね。今、久しぶりに大学に行って直接みんなと会うと、同じ空間にいるということが意外と大きかったのだと感じます。

浜田 学友会の会議も何回かオンラインで行いましたが、こちらについてはどうですか。

吉田 オンラインより、みんなと顔を合わせてやるほうが圧倒的にやりやすいと感じました。

浜田 自分もそうです。オンライン会議で進行役が「質問してください」といったとき、2人の人が同じタイミングでしゃべりはじめてしまったことがあります。

対面だったら、どちらかが「どうぞ」といった後は雰囲気よく話せるのに、オンラインでは2人とも話さずに終わってしまいました。何かをみんなに見せたいときも、映像と実物だと少し差があったりもするので、対面のほうがいいと感じています。

土屋 二人が話してくれたように、オンライン会議を体験して対面の良さを感じる機会がたくさんありました。一方で私としては、場所と時間の拘束がないオンライン会議はすごく助かっています。また、オンライン上だと発言がかぶってしまう点については、慣れの問題もあるでしょうし、Zoomなら反応ボタンを使うとか、拳手制にするとか、工夫できることもあるのではないかと思います。

浜田 最後に大学祭について。今年は藤枝キャンパスの大学祭「鳳翔祭」は中止（代替イベントあり）で、磐田キャンパスの大学祭「蒼樹祭」は11月28日からオンラインで開催する予定です。実際にどういうことをやるのか、本誌を読んでいる方に紹介してもらえますか。

浜田 卒業していった先輩たちの軌跡をたどって、それをビデオで公開する「卒業生リレー」という企画を考えています。自分たち学友会の場合は、学友会の歴代の長の人たちをZoomで取材し、その動画を編集して公開する予定です。

浜田 近隣の方々はもちろん、オープンキャンパスに参加できなかった高校生や、従来の大学生活を送れずに不便な思いをしている1年生にもぜひ見もらって、大学の雰囲気を少しでも感じてもらえたたらと思っています。今日はみんなありがとうございました。



村松 貴利さん / Kiri Muramatsu (経営学部 2年)
浜松市の学生団体「学生FRESH」の代表理事。県内の学生をメンバーにボランティア参加学生のネットワーク作りやボランティア活動の中間支援、学生ひろばを運営中。

オンライン上で学生の居場所づくり。 地域コミュニティを育成中！

コロナ禍であっても、何げない雑談や相談をすることでつながりをつくり、一人でも多くの学生が今後の大学生活を豊かに送ってほしい。そんな思いで、5月からコミュニケーションの場としてオンライン上でZoomを用いた学生の居場所づくりをしています。1年生から履修相談を受けたり、「自分のお気に入りの一枚を紹介！」や「絵しとり！」カードゲームなどで参加者同士が交流できるレクリエーションを行いました。今後はオンラインだけでなく対面の機会を創りだすイベントを計画中。浜松の飲食店からテイクアウトを利用したピクニックを開催するなどして交流を深めていきたいです。



特集_02 “スポーツの持つ力”で SSUスポーツ

地域や社会の未来のために
スポーツ科学部ができること。

Q
スポーツ科学部では
何が学べますか？

A
スポーツを
「する」「みる」
「ささえる」「知る」の
4つの角度から
学びます。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」「知る」の4つの角度から学びます。「する」ではスポーツに係る技能・技術や戦術などを学び、より高い競技力を身に付け、身体能力を高め、スポーツの楽しさも学びます。「みる」ではスポーツの「見方」を学びます。スポーツ中の動きや身体を測ることを通して、スポーツを分析する力を身に付けます。「ささえる」ではスポーツイベントの企画運営の方法を学び、各種スポーツの審判資格や指導資格を取得することなどを通じて、スポーツを支える力を身に付けます。「知る」では、スポーツ社会学、スポーツ人類学、スポーツ医科学などの科目からスポーツに関わる多くの諸情報の収集とその活かし方を学びます。

小澤 治夫

静岡県出身。医学博士。東京教育大学（現筑波大学）大学院体育学研究科修了。筑波大学付属駒場中高校教諭、北海道教育大学教育学部教授、東海大学体育学部教授を経て、2017年より現職。多くの学会・研究会などを通し、体育授業の開発・改善、スポーツ教育推進に取り組む。



小澤先生！
教えて、

豊かな社会を創ろう！ 科学部入門

来春いよいよはじまる「スポーツ科学部」。
まずは、新学部長予定者的小澤治夫教授にお話を伺いました。

Q
スポーツ科学はどのような社会課題の解決に役立ちますか？

A
人々の健康の維持増進に貢献、
健康寿命の延伸を支えます。

ストレッチングやジョギングなどの運動強度の低いスポーツから全力で行う強度の高いスポーツ、そしてそれらの基礎科学を学び、活かすことが社会課題の解決に役立ちます。たとえば長寿社会となった日本においては健康寿命、つまり医療に頼らず健康で生活できる寿命の延伸が課題となっています。多様な生き方をする人々の健康の維持増進に貢献し、豊かな人生のために不可欠な文化としてのスポーツを享受することができるよう役立つのが、スポーツ科学です。また、そうしたスポーツとの関わりを通して地域の活性化にも貢献していきます。

Q
どのような人材養成を目指していますか？

A
すばり、スポーツが有する「力」を
指導に活かせる人材です。

スポーツ科学部では、人々の健康の維持増進に活かすことのできる人材、スポーツに関する諸科学を競技力向上やスポーツ振興、あるいはスポーツ関連産業などの幅広い職域に対応できる人材の育成を目指しています。具体的には、学校の保健体育の教師、健康づくり運動指導者やスポーツ施設等の運営管理者、スポーツ関連企業や自治体の職員などを目指します。また、からだ・こころ・頭脳のバランスがとれ、確かなコミュニケーション能力を有した、広い職域において存分に力を発揮できる人材を育成します。

Q
コロナ禍でも楽しめるスポーツを
教えてください。

A
手軽にはじめ、
楽しく続けるために
スポーツ科学を
活用ください。

室内でできる運動としてはストレッチングや軽い筋力トレーニングや体操などがすすめられます。屋外ではジョギングやウォーキングです。これらは長い生涯にわたってできる運動ですから、コロナ禍で制限のあるこの機に正しい運動の方針を身に付けたらいかがでしょう。また、音楽に合わせてダンスを創ったり踊ったりするのも楽しく生活を送ることにつながります。運動を継続するためには実施内容を記入する Health Quality Control Sheet(HQCシート)を活用するのもよいでしょう。体調を記入できればベストです。このシートはオリンピック選手たちも活用しています。また居住する地域の自分だけのウォーキング・マップを作ってみるのも楽しく運動するための効果的な方法です。自分のスポーツライフにあわせてシートやウォーキング・マップを作成して、活用してみてください。ウォーキング・マップ例は市区町村などのHPを参照してください。



スポーツを通じて
社会貢献

“スポーツの持つ力”を学び、 地域社会を支える SSU卒業生

FILE No.1

● スポーツクラブ指導者



KYOHEI FUJITA
藤田 恭平さん
(株)MIZUTORI Mizutori Sports Club
心理経営学科／2017年3月卒業
体操クラブで未就園児や幼児クラス、
全国大会出場の選手コースを指導。

スポーツを「する、みる、ささえる」。
多角的な視点で盛り上げる。

在学中に専攻していたスポーツ心理学の学びを活かし、子どもたちの体操指導中では対話を大切にしています。コーチングや対話することを心がけ、なぜできないのか?どうやったらできるようになるか?などを子どもたちに問いかけたり、考えさせたりしています。一方的に教えるより、子どもとの距離が近く感じられ、教える方も気づきが多くなるので、指導方法の勉強にもなっています。

体操クラブに通われている会員様への指導の他に、近隣の小学校へ器械運動の授業について教員に教えに行くこともあります。体操を専門に教える私たちが、子どもたちに教えるとともに学校の先生にも安全な指導方法を教えています。また、私たちが学校へ出向くことによって、実際に体操クラブに来てくれる子どももいるので、地域とのつながりを大切にしています。

コロナ禍で外に出る機会が減っている今だからこそ、子どもも大人もスポーツを通してでしかできない様々な経験をして欲しいです。これからは、さらに“する・みる・ささえる”など多角的な視点でスポーツを盛り上げていきたいです。



FILE No.2

● スポーツ振興機関職員



MARINA TSUNODA
角田 真里奈さん
公益財団法人静岡県スポーツ協会
スポーツ経営学科／2010年3月卒業
静岡県スポーツ協会で生涯スポーツ担当を
経て競技スポーツ担当。

スポーツは「する」人だけでなく、
様々な人が関わるもの。

スポーツ指導者を目指していた時期もありましたが、指導以外でスポーツに携わる仕事がしたいと思い、大学の先生に相談したところ、現在の職場を紹介していただきました。現在は競技スポーツ担当として、国民体育大会へ出場する選手の手続きやメディカルチェック等の医・科学的な事業の取りまとめを行っています。

スポーツ医・科学を担当する中で、スポーツをする人とドクターやトレーナー、薬剤師、栄養士と繋げる役割を担い、女性アスリートのサポートや、薬の正しい使い方などを情報提供する場を作りたいと考えています。また、全世代の女性アスリートが、無理なくスポーツを続けられるよう、正確な情報を伝えていきたいです。

私は大学時代にスポーツは競技だけでなく、マネジメント、心理学、栄養学など様々な分野とつながっていることを知ることができました。スポーツはする人だけでなく、様々な人が関わるもの。学生の皆さんには大学で色々なことを深く学び、自分がどの立場でスポーツに携わりたいか、自分の道を切り開いて欲しいと思います。



FILE No.3

● 健康づくり運動指導者



NATSUMI YAMAUCHI
山内 菜摘さん
シンコースポーツ株式会社
スポーツ経営学科／2015年3月卒業
スポーツ施設で運営管理、トレーニングと
トランボリンの講師を勤める。

スポーツを通じて「地域交流」。
指導者としてもステップアップ中。

スポーツが好きでスポーツに携わる仕事がしたい、身体を動かす仕事がしたいと思っていた学生時代。在学中はトランボリンの競技選手をしながら、子どもたちの指導も行っていたおかげで、就職してもスムーズに幼児指導ができました。また、静岡産業大学はスポーツ系の資格を取ることが特長のひとつ。私は健康実践指導者資格を取得しました。基礎が備わっていたこともあり、卒業後、ステップアップとして健康運動指導士資格を取得することができました。

スポーツで元気を発信することが私の夢。トレーニングが目的でスポーツ施設に訪れる地域の方への健康サポートが私の仕事。施設では皆さんがトレーニングを頑張りたいと思える環境づくりを大切に、トレーニングの指導はもちろん、何気ない会話で、体調を伺うよう心がけています。

大好きなトライルランニングでは地域イベントを開催。ランニングを楽しむ人たちのコミュニティづくりを大切に、参加者には地域の人との交流や郷土料理を提供するなど、その土地の魅力を知ってもらいたいと思いながら続けています。



学びの先にある未来。

スポーツ科学で得意分野の知識と技能を磨き続け、
企業や学校、自治体で活躍中。

静岡産業大学の卒業生と活動内容を紹介します。

FILE No.4

● 高等学校教諭(保健体育)



HIROKI KARAKAWA
唐川 大樹さん
佐賀県立伊万里高等学校
スポーツ経営学科／2014年3月卒業
佐賀県の公立高校で
保健体育教諭を勤める。

将来、様々な分野で活躍する「人材」を
スポーツで育成したい。

大学まで続けたサッカーで培った力を、教員として学校生活や部活動を通じ子どもたちに還元し、将来様々な分野で活躍する人材を育成したいという思いで教師になりました。

大学の講義ではスポーツに関する分野だけでなく心理学や経営学を学んだことで、クラス経営や部活動のチームビルディングについて参考になることが多い、教育の場面に活かされています。また、スポーツ保育を実践する生徒が主体となるキッズスクールの活動で学んだノウハウを活かし、地域の少年サッカーチームや中学校の部活動と交流をして生徒が主体となったサッカー教室を運営しています。

部活や体育など、スポーツの活動を通じて自己肯定感や自己有用感のある生徒を多く育て、部活動(サッカー)では、上位カテゴリー(大学・プロなど)での活躍や全国の舞台で活躍する人材を育成することが私の夢。スポーツ科学部の新設で、学生がより高いレベルで学べる環境が整うことは羨ましくもあり、静岡産業大学からスポーツ分野で活躍する人が輩出されることを願っています。



POWER

パワーとは? 脚伸展パワーを 測って理解を 深めよう



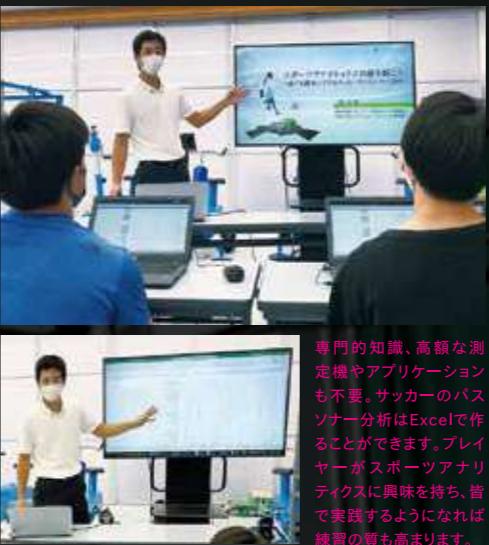
大きな「パワー」を発揮することは、多くのスポーツ競技で重要です。そもそも、このパワーとは何でしょうか?脚伸展パワーを計ることで自身のパワーを知り、パワーへの理解を深めてみましょう。

江間 謙一准教授 EMA Ryoichi 専門分野／運動生理学、バイオメカニクス、神経筋生理学

反動動作を使わず、足に固定したプレートを両脚でできる限り強く蹴り出し、そのときに発揮されたパワーを測定します。プレートに加えた力と、プレートが動くスピードでパワーが決まります。

ANALYSIS

Excelを使った サッカーの パスソナー分析



近年、スポーツアナリティクスの分野が急発展していますが、高校の部活動や学校体育では、まだまだスポーツアナリティクスの実践は浸透していません。データ活用スキルを身につければ、スポーツの技能を高めたり、マネジメントや戦略に活かしたりすることができます。

徐 広孝講師 JO Hirotaka

専門分野／保健体育科教育学、体育測定評価学、スポーツ統計学、スポーツデータサイエンス

TAPING

解剖学に基づいた テーピングで ケガを予防



スポーツ活動でよく起こるケガ。解剖学をはじめとしたスポーツ医学の知識とテーピングなどの実践的技術を習得することで、ケガを予防することができ、「スポーツ選手を守り、支えること」につながります。



足関節は、スポーツ活動中に最もケガが起こる部位。きれいに巻くことは重要ですが、効果を発揮するためには、足関節の構造や動きなどの解剖学の知識を駆使して、規則正しく適切に巻く技術が必要です。

中井 真吾講師 NAKAI Shingo
専門分野／スポーツ医学、体力科学、理学療法学



特集_02 “スポーツの持つ力”で豊かな社会を創ろう！ SSUスポーツ科学部入門

スポーツ科学を 体験しよう。

スポーツ科学部の授業を一足先に体験！

パワー計測・ケガ予防・データ分析・最新科学機器を使った計測など
スポーツ科学の各専門分野の先生に指導いただきました。

MOTION

体の動きや パフォーマンスを 科学機器で計測



多くの競技で求められる素早さとしなやかさ。これまででは数値化することが難しかったこれらの身体能力を、最新のスポーツ科学機器を使って計測。計測結果と評価を使いこなす意味を理解すれば、科学的な視点でアドバイスできる力が養われます。

館 俊樹准教授 TACHI Toshiki
専門分野／運動学、トレーニング科学



体の周囲に配置された機器の発光にリアクション。的確かつスピーディに動くためには、筋力、瞬発力、俊敏性だけでなく、判断力も必要。素早さとしなやかさを計測することでスポーツ動作への理解が深まります。

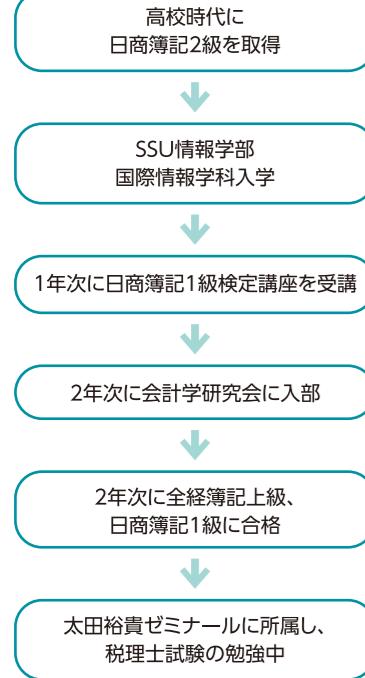
2年次に日商簿記1級に合格し、新たな目標ができました！

日商簿記1級は、合格率が毎回約10%といわれるほど難関資格。それに見事合格した國松さんにお話を伺いました。

日商簿記1級受験のきっかけは？

高校時代に日商簿記3級と2級は取得していたので、せっかくなら大学在学中に1級も取りたいと思い受験しました。

【経歴】



Q 1級合格のために どんな勉強をしたの？

まずは1年次に、学内で開催されている「日商簿記検定1級講座」を受講しました。講座は1回100分×2コマが週4回とかなりハードでした。また、この講座の担当教員が顧問をされている会計学研究会に入り、授業終わりに先生の研究室で2~3時間、予想問題を解くのを日課としていました。自宅ではなかなか集中できないので、大学内で勉強することができたのは本当にありがとうございました。



情報学部 国際情報学科3年

國松卓馬さん

Q SSUに入学して よかったことは？

先生方に恵まれたことです。なかでも石垣先生には本当にお世話になっています。僕たち学生のために研究室をいつも開放してくれて、質問に答えるのはもちろん、相談にも親身に乗ってくれて。ほかの先生方もとても熱心で、学生との距離が近いのはSSUの特長かもしれません。いつもそばで見守って応援してくれるんです。先生方に「勉強をやらされている」という感覚はまったくありません。だからこそ頑張れるのだと思います。

Q 大学卒業後の 夢を教えて！

日商簿記検定1級に合格できたことはとてもうれしかったです。でも、これはゴールではなく、むしろスタート。現在は税理士になるために必要な5科目の国家試験への合格を目指し、再び試験勉強に取り組んでいます。実は、この夏に5科目のうち3科目は受験済み。現在は結果を待ちながら残り2科目の準備を進めているところです。卒業後は、会計事務所や税理士事務所で働き、税理士として地域社会に貢献できたらと思っています。



人間形成の大切さをSSUで学びました。

SSUサッカー部からブンデスリーガーを目指した大島正寛さん。その夢は今、支える立場から追い続けています。

留学サポート職を目指したきっかけは？

もともと興味はありましたが、日本の知人から、選手のサッカー留学を相談されたことがきっかけでした。

Q SSUで学んだこと、 得たことは？

部活動から学んだことが多かったです。例えばチームワーク。ひとつのことに対して、チームとしてどう取り組むかを深く学びました。また、選択して良かったなと思ったのは運動学です。日本からのスポーツ留学生に、「この筋肉が足りないよ」とアドバイスをする時に効果的なトレーニング方法を教えたり、ケガをした時のテーピングの巻き方など、実践的な知識が役立ちました。専門的なアドバイスができることは大きな強みになっています。

Q SSUに入学して よかったことは？

一生つき合える仲間と出会えたことです。もともと人と関わる仕事に興味があり、「強みになるかもしれない」と教職課程を履修しましたが、授業と部活動との時間調整にとても苦労しました。そんな時も、部内で教職を取っている仲間たちと、「サッカーも、教職も、頑張ろう！」と励まし合えたから、乗り越えることができました。今はそれぞれの道を歩んでいますが、帰国した時に集まったり、メールで情報を交換合つたりできる大切な仲間です。



選手の成長を見守り、支えることにやりがいを感じています。

ドイツ2部リーグで指導者をする傍ら、プロを目指してサッカー留学する日本人のサポートをしています。留学生のトライアウト参加やプロ契約、生活面などをサポートするだけでなく定期的に面談し、厳しく指導することもあります。静岡産業大学サッカー部やドイツリーグに在籍していた時、上を目指すなら他者との関わりを通して人間形成が大切だということを痛感し、その実体験や知識を生かしています。今はサポートする立場に変わりましたが、選手の成長が目に見えて分かるのでやりがいがあり、挑戦して良かったと思っています。サポートを始めて3年、生活スタイルも落ち着いているので、新しいことにも挑戦してみたいと考えています。



FOOTBALL ACADEMY GERMANY 経営

大島正寛さん

(2012年3月スポーツ経営学部卒業)

【プロフィール】

北海道出身。小3からサッカーを始め、高校生の時、道大会ベスト4を経験。

↓
SSUへ進学。サッカー部で活動しながら教職免許取得。

↓
卒業後、プロ選手を目指してドイツへサッカー留学。

↓
アマチュア・トップリーグのチームに4年間所属。

↓
退団後、ドイツでサッカー指導者をする傍ら、プロを目指してサッカー留学する日本人のサポートを始動。

なぜ「FOOTBALL ACADEMY GERMANY」を立ち上げようと思われたのですか？

知人からの留学相談をきっかけにこの仕事を始めましたが、徐々に件数が増え、職業にできるという手応えを感じました。選手時代は僕もサポートを受けていたので、留学支援のためのアイデアもあり、立ち上げました。それに合わせてホームページを開設したこと、インターネットでの依頼が増えました。フランクフルトに自宅兼オフィスを構え、元チームメイトのドイツ人の友人が手伝ってくれています。



学生の挑戦を大学が徹底的にサポートしてくれる

SSUでは資格取得のための無料講座が数多く開かれています。資格取得奨励金制度もあるんです。奨励金の存在は非常に励みになりました。僕の場合は、全経簿記上級、日商簿記1級に合格して20万円の奨励金をいただき、そのお金で合格祝いを兼ねた小旅行に行きました。いい思い出をつくることができ、感謝しています。もし、簿記検定や税理士試験という目標がなかったら、4年にわたる大学生活で暇を持て余したかもしれません。でも、学生のチャレンジを応援する制度と先生方のおかげで勉強に打ち込むことができ、充実した毎日を送っています。後輩の皆さんには、何でもいいから夢中になれるものを見つけてほしいと思います。

未来のビジネス社会で必要とされる人材育成プロジェクトが 藤枝駅前サテライトキャンパス(BiViキャン)でスタート

今年度の新たな取り組みとして9月26日(土)より「bizneo(ビズネオ)プロジェクト2020」をスタートさせました。これは、藤枝市の方創生事業(大学とのまちづくり推進事業)として実施され、本学と藤枝市、静岡理工科大学、企業が連携しながら3年計画で地域の未来を担う人材育成に取り組むものです。

本プロジェクトのカリキュラム構成は、データから地域や世界のビジネスについて学び、情報活用力を磨く「アカデミック・セクション」、ビジネスにおける基礎フレームを学ぶ「キャリアデザイン・セクション」、英語のプレゼンテーション力を鍛える「グローバル・セクション」の3領域を学びの柱におき、ワークショップ形式で理論と実践を繰り返しながら、ビジネス創出に必要な文理融合型の「ICT活用力」や「データ・サイエンス」に関する基礎知識・スキルの他、「発想力」「論理的思考力」「提案力」「英語実践力」などの獲得を目指します。

また、現実社会に存在する諸問題の解決に生かせるアイデアを創出するには「地元理解」が必要なため、学生の生活拠点でもある「静岡」を舞台に、様々な視点から地元理解を深め、グループでの調査や

アイデア創出などの活動を通じチームの力を高めていきます。さら

に、外部アセスメントテストを活用することで学生一人ひとりが持つ

能力を可視化し、数値データを元に個々の能力開発も行います。

現在、18名(全員1年生)の学生が本プロジェクトに参加しており、毎週水曜日と土曜日に藤枝駅前サテライトキャンパス(BiViキャン)で活動しています。今年度は新型コロナ感染症の影響を受けて9月からのスタートとなりましたが、オンラインを利用するリモート講義と対面式の講義の両方を取り入れながら活動を進めています。



コロナ下の学生に交流を通じて キャンパスライフを支援

コロナ下の学生への支援として「高大連携プロジェクトA」を開講しました。本学では後期より半数程度の授業科目において対面授業を開始していますが、1年生にとっては、ほぼ初めてのキャンパスでの授業となります。そこで、この科目は高校から大学への学修面の円滑な移行、対面授業・今後の学修に不安を感じる学生、学修をより発展させたい学生を全学体制で支援し、キャンパスライフをより充実させることを目的に急遽、開講されました。

1回目の授業では、コミュニケーション演習を通して交流をした後、キャンパス内を見学しました。各所で歓迎され、担当の教職員よりそれぞれ丁寧な説明を受けた履修者は、「初めて見る施設が多く、とても楽しかった。これから大いに活用したい」と話していました。



「WFWP女子留学生 日本語弁論全国大会」で3位入賞

10月3日(土)、「WFWP女子留学生日本語弁論全国大会」が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。全国の地区大会の最優秀賞受賞者から選ばれた7か国8名の留学生が出場し、静岡県大会で最優秀賞を受賞した経営学部1年のザー・チ・テーさん(ミャンマー出身)が3位入賞しました。

ミャンマーから大きな夢と希望を持って日本に来たテーさんが味わった初めての孤独と挫折、日本に来た目的を見失いかけたときにかけられた「あきらめないで」という日本語学校の先生の言葉、そして、夢に向かってこれからも頑張り続けるという決意に、会場からは大きな拍手がわき起きました。新型コロナウイルス感染症対策を最大限に行い、大会を開催していただいた実行委員会の皆様を始め、この大会に関わってくださった方々に感謝致します。



藤枝市産学官連携推進協議会事業「ふじえだWeb企業説明会@Zoom」 企業と学生のマッチング～産学官が連携して企業や地域の課題解決を目指す～

10月25日(日)、藤枝駅前サテライトキャンパス(BiViキャン)で「Webによる企業説明会・交流会」が開催されました。このイベントは、地元企業と学生の交流の場、マッチングの機会として藤枝市産学官連携推進協議会が主催し、地元大学の学生8名(静岡産業大学5名、静岡県立大学1名、静岡理工科大学2名)が企画・運営を行いました。

コロナ禍において、就職・採用活動も急速にオンライン化が進む中、いかに学生と企業のマッチングを行っていくかが喫緊の課題です。この課題を解決するため、Web(Zoom)による企業説明会を実施することに決め、学生達は6月頃から準備を進めてきました。対面の議論ができない、ZoomやビジネスSNS(Slack)を駆使し、複数企業が参加するセミナーをZoomで運営するための運用方法やWebで効果的な伝達方法等を話し合いました。



徹底した感染防止対策で 安全に配慮した対面授業を実施

本学では、「安全」を最優先し、その中で「最善の教育活動」を行う」という学長方針のもと、後期授業は約半数の授業科目を対面で実施しています。原則的に実習や実験の授業、あるいは講義の中で実習や実験の要素が多い授業を対面授業とし、大勢が一堂に聴講する講義形式の授業の多くはオンライン授業としています。対面授業では履修人数の制限(定員の6割程度)や十分な換気など、3密を避けるための予防策を講じ、登校者にはキャンパス入口での氏名の記入と体温をチェック、マスクの着用、手指消毒の徹底をお願いしています。また、共有スペースやPC教室では飛沫感染防止のためのアクリル板やビニールシートを設置しています。冬の到来に伴い、国内外の感染状況を注視しつつ、安心して学業を継続できる環境づくりに努めています。

